

九重町 横断歩道橋長寿命化修繕計画

令和元年 9月

(令和7年 12月改訂)



九重町役場 建設課

【 目 次 】

1. 対象施設	…P1
2. 計画期間	…P2
3. 対策優先度の考え方	…P2
4. 個別施設の状況等	…P2
5. 対策方針	…P3
6. 対策内容と実施時期及び対策費用	…P3

1. 対象施設

1-1 長寿命化計画の目的

本町が管理する横断歩道橋は、令和7年4月1日現在で1橋である。
この横断歩道橋は、九州旅客鉄道株式会社(以下、JR九州)の鉄道路線上に架かる橋梁であり、点検等の維持管理には、JR九州への委託が必要となる。
このような背景の中、より計画的な横断歩道橋の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に横断歩道橋を維持していくための取り組みが不可欠となる。
コスト削減のためには、従来の対症療法型から、”損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う”予防保全型への転換を図り、横断歩道橋の寿命を延ばす必要がある。そこで、本町では、将来的な財政負担の低減及び第三者の安全性の確保を図るために、横断歩道橋の長寿命化計画を策定する。
また、さらなる維持管理の費用削減、効率化を図るため、「新技術の活用」、「集約化・撤去」の対策方針の検討が必要となる。

1-2 対象横断歩道橋

橋梁名	所在地		路線名		距離標
物見塚人道橋	玖珠郡九重町右田		物見塚菰迫線		79km124m
構造	架設年	橋長	全幅員	点検年度	判定区分
単純H鋼桁	不明	31.5m	1.2m	R4	Ⅱ

位置図



写真(全景)



写真(階段部)



2. 計画期間

計画期間は、5年に1回の定期点検及び修繕までサイクルを踏まえ、「10年」とする。
なお、次回点検後に、判定結果から変状の進行性を考慮し、計画の見直しを図る。

3. 対策優先度の考え方

点検結果に基づいて、効果的な維持及び修繕が図られるような措置を講ずる。
対策の優先順位は、1橋しかないが、損傷の程度や進行の度合い、第三者への影響度から判断し、適切な時期に対策を行う。

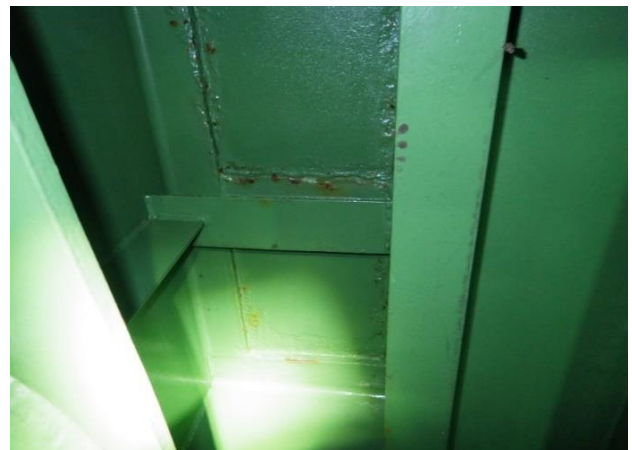
4. 個別施設の状況等

上部工(主桁、横桁、床版)において、さび等が散見されたが、いずれも程度は軽微であり、経年劣化によるものと思われる。全体的に見て、安全性を損なう危険性を有するような変状は見られなかったが、高欄部分の破断等、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい。

桁下(全体)



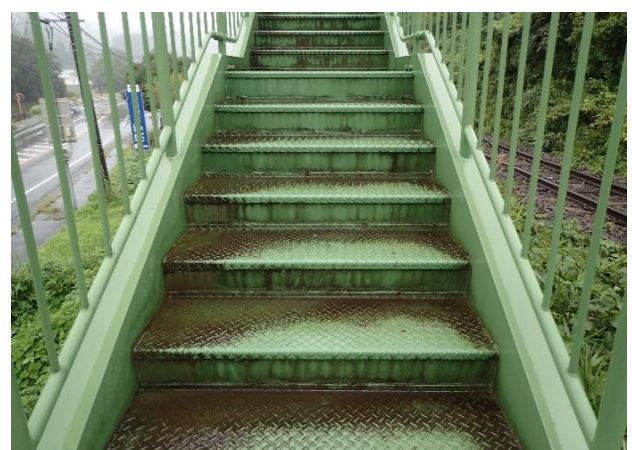
桁下(さび)



高欄(さび)



階段部(さび)



5. 対策方針

・基本方針

限られた予算の中で、効率的に維持管理を実行するためには適切な点検・修繕を選定する必要がある。長期的な維持管理コスト削減を目標に、「地域一括点検」、「新技術の活用」、「集約化・撤去」の活用検討を行う。

・地域一括点検

令和4年度の定期点検から、大分県による地域一括点検の試行が行われ、平成29年度の町単独発注で実施した費用と比較し、約24%の点検費用の削減が可能となった。

発注形式	九重町発注	県(地域一括発注)	差額	率
	前回点検業務価格 (H29)	今回点検業務価格 (R4)		
当初設計	2,781,000	2,246,745	-534,255	-23.8%
	(消費税率 8%)	(消費税率 10%)		

・新技術の活用

大幅な品質向上やコスト削減が図れる有効な新技術等は、新技術情報共有システム(NETIS)を参考に比較検討を行い、令和13年度までに1例の新技術活用と0.5百万円の削減を目標とする。

・集約化・撤去

集約化・撤去の検討を行った結果、九重町管理する1橋については生活道路として利用されており社会活動等に影響を与えるため集約化・撤去を行うことが困難である。

ただし周辺の状況や施設の利用状況等を踏まえて、関係機関や地元関係者と調整を行い再度検討を行う。

6. 対策内容と実施時期及び対策費用

防食機能の劣化の損傷に対し、「塗装塗替工」の対策が必要となる。

現時点では、軽微なものであるが、定期点検を行いながら、判定区分が「Ⅲ」となるまえに、対策を行う。

対策の内容・時期									
R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
定期点検 ←→ 3百万円					定期点検 ←→ 3百万円				
				(部分塗替) ←→ 5百万円					